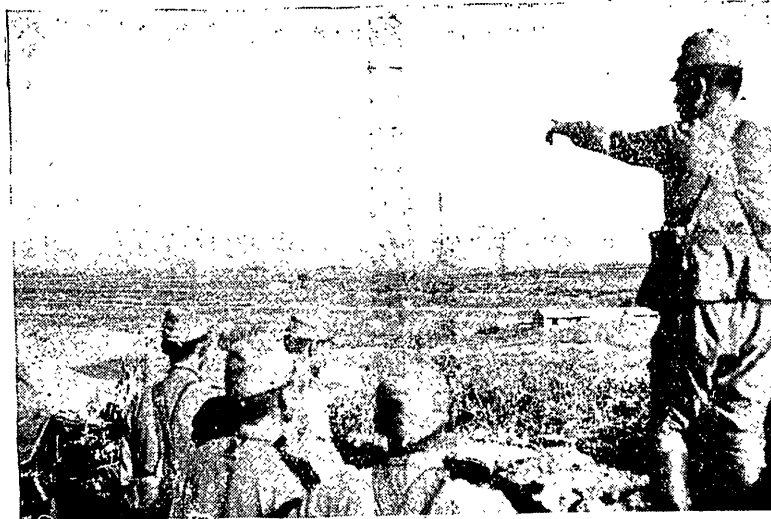


第一 第二十九軍に對する膺懲戰

— 支那事變發端の梗概 —

1850



龍王廟を指す

1851

昭和十二年七月七日夜我支那駐屯軍に屬する豊台駐屯部隊の一部は蘆溝橋（北平西南方約三里）の北方地區で夜間演習中突如支那兵より數十發の射撃を受け更に龍王廟附近の支那兵から迫撃砲及小銃射撃を受けたので我軍は已むを得ず之に應戦し支那事變の誘因となつた。

我が軍の嚴重抗議の結果支那軍蘆溝橋よりの撤退を約せしも爾後屢々挑戦行爲あり兵力を増加し永定河西岸及長辛店高地端に陣地を設備するに至つた。

帝國政府  
重大聲明  
を發表す

加之、萬福麟、商震、劉峙等の諸軍は保定以南平漢沿線に集中し、且南京政府は中央軍に出勤を命ずる等事態は益々逼迫せるに鑑み政府は十一日北支派兵に關し閣議一決し、十五日内地から一部の兵力を派遣すべき陸軍省發表があつた。

一方駐屯軍參謀長は極力不擴大の方針を體し北平に於て九日以來冀察主腦部と折衝に努めてゐたが依然狀況は緩和せず我が軍が隱忍自重せる態度にも拘らず其挑戦行爲は枚擧に遑なく我が軍は二十日正午以後自衛上独自の行動を採るべきを通告した。

耶坊事件

二十五日耶坊驛附近にて軍用電線故障修理中支那軍は突如攻撃し來たので我は寡兵よく應戦し急派されし部隊と協力敵を潰走せしめた居留民保護の爲廣部部隊は廣安門通過に際し突如門を閉鎖して我に猛射を浴せたので我部隊は之に應戦した。

北支事變經過の概要

此の欺瞞的行爲は我が軍を侮辱すること甚しく軍は独自の行動に出づるに決し其旨を二十七日夜十二時宋哲元に通告した。

斯くて二十八日早曉から北平周邊の第二十九軍に對する膠懲戰は開始されたのである。

宋哲元は二十八日夜半後事を張自忠に託し保定に遁走した同夜天津及通州は支那兵の襲撃を受けた天津守備隊は支那軍に多大の損害を與へて撃退するを得たが通州に於ては暴戻なる叛亂兵のため居留民の大部は慘殺され其鬼畜に等しき殘虐行爲は正に神人共に許さざる所にして痛恨の極である。

各地に於て支那軍を撃退或は武裝解除を行ひ平津地方の治安は遂次恢復された。

八月一日河北省各縣治安維持會聯合會が結成され冀東政府は殷汝耕に代つて池宗墨が九日唐山に於て新機構と新陣容とを以て業務を開始した。

#### 平綏線及内蒙方面

平綏線方面は八月初頭より支那軍は活潑なる動きを見せ、平津地方を側面から脅威するの態勢をとるに至つた、我が軍は此の方面の支那軍を撃滅するに決し十一日龍虎臺一帯を占據し續いて南口鎮、居庸關等の堅壘を抜き二十四日には長城線及石洞子を通過午前八時頃には懷來平地の一角大山口十八家の線に進出した。

内蒙方面に於ても支那軍は強大なる兵力を東進せしめ滿洲國に多大の脅威を與ふるに至つたので關東軍は斷乎立つて撃滅するに決し飛行隊の一部と共に二十四日夜半張家口を占據して察哈爾省に侵入せる支那各軍の後方を遮斷した。

#### 津浦、平漢線方面

中央軍は依然北上を続け、二十日頃には其の兵力は中央軍約三十師四十萬に上つてゐる、有力なる中央軍が良郷西側地區に進出して來たので我が軍は二十日拂曉より之を攻撃して二十一日午後六時良郷西方高地を占據した。

津浦線方面に於ても二十一日夕獨流鎮を出發して惡天候と戦ひつゝ追撃を開始し二十四日午前十一時靜海縣城を占據した。

山東省方面も物情騒然たるに至り十七日には青島を除く山東省各地の在留邦人は全部引揚げた。

#### 中南支方面

中南支の各地に於ける我居留も事態愈々切迫したので長江筋居留民は九日午後一時を以て全部上海迄引揚を完了した。

上海の空氣も益々緊迫を加へ大山海軍中尉射殺せらるる十三日午前九時陸戰隊斥候突如支那兵の射撃

#### 北支事變經過の概要

を受け戦端は遂に開かれた十四日午前十時から支那機編隊は我軍艦及公大紡績を爆撃して來、血迷つた支那機は共同租界及佛租界に爆弾を投下し多數の支那人及外人を殺傷した。

斯くて十五日午前一時十分「帝國としては最早隱忍其限度に達し支那軍の暴戾を磨懲し以て南京政府の反省を促す爲今や斷乎たる措置をとるの已むなきに至れる」旨の重大聲明を發表した。

我海軍航空隊は十四日午後六時半より算橋、杭州喬司飛行場、廣德飛行場を、更に十五日には南京、南昌飛行場を空襲したのを始めとし支那空軍根據地を爆撃し多大の損害を與へた。午後空陸海相呼應して優勢なる支那軍の攻撃を撃退してゐたが、二十日頃には支那軍の氣勢は漸く衰へ戦線は膠著状態に陥つた。

前述の情勢に鑑み陸軍は一部隊を中支方面に派遣するに至る。

南支に於ても二十日迄に廈門を除く各地の在留邦人は全部撤退を完了し廈門の居留民も二十四日迄には引揚げを完了する見込である。